

6. 研究報告抄録

瀬戸臨海実験所研究報告 (Publications of the Seto Marine Biological Laboratory) 第38巻第3/4合併号が、1998年12月25日に発行された。掲載論文3編、総頁数86頁。

第38巻第3/4号 (1998年12月)

論文1. Yamanishi, R. Ten species of *Pisone* (Annelida: Polychaeta: Pisionidae) from Japan and evolutionary trends in the genus based on comparison of male copulatory apparatus. [山西良平：日本産スナゴカイ属（環形動物：多毛類：スナゴカイ科）の10種と雄交尾器官の比較に基づく属内の進化的傾向]. 日本産スナゴカイ属について、5新種・3新亜種・1日本初記録種を含めて、10種を記載するとともに、走査電顕による観察を行った。日本産の14種についての情報をとりまとめた。本属全体にわたる雄交尾器官の比較から、類縁の4群が識別された。本属における系統関係および進化的傾向について論じた。(83-145 頁)

論文2. Saito, T., Nakajima, K. & Konishi, K. First zoea of a rare deep-sea shrimp *Vexillipar repandum* Chace, 1988 (Crustacea, Decapoda, Caridea, Alpheidae), with special reference to larval characters of the family. [斎藤知己・中嶋清徳・小西光一：稀少な深海産エビ類 *Vexillipar repandum*（甲殻類，十脚類，コエビ類，テッポウエビ科）の第1期ゾエアの記載と科内の幼生形質との関連]. 深海産六放海綿類に共生するテッポウエビ科の *Vexillipar repandum* で、実験室で孵化した第1期ゾエア幼生を記載・図示した。本幼生の一般的形態は、既知のテッポウエビ属と類似している。コエビ類における、テッポウエビ科ゾエアの特徴点を図示した。(147-153 頁)

論文3. Yamamoto, T., Kubota, S., Sakai, K., Kurozumi, T., Ohta, M. & Tanase, H. Many records of hermatypic scleractinian corals that grew on molluscan shells. [山本泰司・久保田信・酒井和彦・黒住耐二・太田満・田名瀬英朋：軟体動物上に生育する造礁性イシサンゴ類の多数の実例]. 造礁性イシサンゴ類が着床・成長した軟体動物の40例を報告した。イシサンゴ類45群体は6科8属に属し、軟体動物は12科15属にわたる。35例は田辺湾から、5例は沖縄などのサンゴ礁域からの記録である。貝殻の上には、大部分は1群体、まれに2-4群体が見られた。サンゴにとって、貝殻が生息場所としていかなる環境であるかについて論じた。(155-168 頁)

(編集委員会)